

平成14年度研究補助金等

【科学研究費補助金（研究代表者）】

研究代表者	研究課題	研究種目	研究期間
廣田 豊彦	協調業務支援ソフトウェア開発のための多視点業務モデリングに関する研究	基盤研究 C (2)	H14~16
石田 健一	作用素関係式に基づくマイクロ波による断面像再構成法の検討	若手研究 B	H13~14
相 利民	強力な並列計算モデルBSR ⁺ のアルゴリズム実行環境の実現に関する研究	基盤研究 C(2)	H14~15

【科学研究費補助金（研究分担者）】

研究分担者	研究課題（研究代表者）	研究期間
牛島 和夫	自己計測機能を持つ並行処理ソフトウェアの系統的開発法に関する研究 (九州大学システム情報科学研究所 助手 乃村雅史)	H13~14
宮崎 明雄	社会基盤を構築するためのシステムLSI設計手法の研究 (九州大学システムLSI研究センター 教授 安浦 寛人)	H14~18
朝廣 雄一	巨大分散システムの安定性—テラの時代に向けて (九州大学大学院システム情報科学研究所 教授 山下 雅史)	H14~16
合志 和晃	人間の視覚特性を利用した遠隔操縦用ヒューマンインターフェースの実用化 (九州大学大学院システム情報科学研究所 助教授 志堂寺和則)	H14~15
合志 和晃	立体映像における人の空間認識特性と空間認識制度に関する研究 (九州大学大学院システム情報科学研究所 教授 松永 勝也)	H14~15

【受託研究】

研究者	研究課題	受託機関	研究期間
下川 俊彦	総務省 e! プロジェクトの推進に関する研究	九州電力 (株) 電子通信部	H14/12/26 ~15/3/20

【奨学寄付金】

研究担当者	寄付者
安部 恵介	三菱電機 (株) 先端技術総合研究所
宮崎 明雄	松下電器産業 (株) マルチメディア開発センター

【共同研究】

参画者	研究課題，研究代表者	研究期間
下川 俊彦	「遠隔地間における次世代仮想研究室を実現する研究」 (岩手県立大学 教授 村山優子)	H15/2/11 ~16/3/31

平成14年度学会活動等

牛島 和夫	情報処理学会アクレディテーション委員会委員長 JABEE 情報および情報関連分野審査委員会委員長 (社) 日本工学アカデミー理事 (財) ソフトウェア工学研究財団理事 (財) 九州システム情報技術研究所所長 東京工業大学大学院情報理工学研究科外部評価委員 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科アドバイザー委員会委員
安部 恵介	電気学会電子・情報・システム部門論文委員会委員 平成14年度電気学会電子・情報・システム部門大会論文委員会委員
宮崎 明雄	電子情報通信学会回路とシステム研究専門委員会委員 電子情報通信学会英文論文誌「デジタル信号処理特集号」編集委員 春日市情報公開総合推進審議会委員 (福岡県春日市) 春日市情報化基本計画検討懇話会委員 (福岡県春日市) IEEE Fukuoka Section Secretary
一ノ瀬 裕	日本音響学会査読委員
下川 俊彦	情報処理学会 情報処理学会高品質インターネット研究会 連絡委員

平成14年度受賞等

下川 俊彦	九州産業大学の学術文化振興奨励賞 研究功労賞 (平成15年3月受賞) 九州産業大学の学術文化振興奨励賞 教育功労賞 (平成15年3月受賞)
合志 和晃	九州産業大学の学術文化振興奨励賞 教育功労賞 (平成15年3月受賞)

平成14年度九州産業大学情報科学部の新聞記事等

システム工学
乱数生成装置を開発
 情報セキュリティの普及・拡大に伴って、情報化による情報セキュリティの確保が重要になってきている。新しい乱数生成装置は、半導体素子から発生する白色雑音を利用し、乱数生成の手間が不要な方法で生成される。今従来と異なる用途での利用が期待される。

日本工業新聞
 平成14年8月30日
 第2面

日本工業新聞
 平成14年8月30日
 第2面

「音声通話による非同期型会話システム」
 「ネット情報などの暗号化乱数発生装置」

2社が工業化に成功

J.S.T 受託
 開発制度活用

科学技術振興事業団（JST）は、関東、東北、中部、近畿、四国、九州の各府県知事会と連携して、インターネット環境下での「音声通話による非同期型会話システム」の開発を支援し、2社が工業化に成功した。

このシステムは、音声通話による非同期型会話を実現し、ネット情報などの暗号化乱数発生装置を開発した。また、工業化した乱数生成装置は、半導体素子から発生する白色雑音を利用し、乱数生成の手間が不要な方法で生成される。今従来と異なる用途での利用が期待される。

また、開発されたシステムは、従来のシステムよりも、乱数生成の手間が不要な方法で生成される。今従来と異なる用途での利用が期待される。

日刊工業新聞
 平成14年8月30日(金)
 第5面

日刊工業新聞
 平成14年8月30日
 第5面

2003.01.20 日刊工業新聞 (2003. 01. 20)

日韓交流促進へ
光ケーブル活用

九電など | T実験開始

04年度まで 産学官結び連携強化

日韓政府が共同研究支援

九電・韓KTなど案件

毎秒1ギガビットの回線運用

福岡 — 釜山

主な日韓連携プロジェクト		
名称	実施機関	内容
「日韓共同研究センター」	九州電力、韓国電力	電力分野の共同研究・開発

日韓共同研究センターは、電力分野の共同研究・開発を促進し、日韓間の技術交流を深めることを目的として設置された。九州電力と韓国電力が共同で運営している。このセンターでは、電力分野の共同研究・開発を進め、日韓間の技術交流を深めることを目指している。

九州電力は、韓国電力と共同で「日韓共同研究センター」を設置し、電力分野の共同研究・開発を進めている。このセンターでは、電力分野の共同研究・開発を進め、日韓間の技術交流を深めることを目指している。

九州電力は、韓国電力と共同で「日韓共同研究センター」を設置し、電力分野の共同研究・開発を進めている。このセンターでは、電力分野の共同研究・開発を進め、日韓間の技術交流を深めることを目指している。

日刊工業新聞
平成 15 年 1 月 20 日

20030115001.23西日本

日韓交流促進へ
光ケーブル活用

九電など | T実験開始

04年度まで 産学官結び連携強化

日韓政府が共同研究支援

九電・韓KTなど案件

毎秒1ギガビットの回線運用

福岡 — 釜山

日韓共同研究センターは、電力分野の共同研究・開発を促進し、日韓間の技術交流を深めることを目的として設置された。九州電力と韓国電力が共同で運営している。このセンターでは、電力分野の共同研究・開発を進め、日韓間の技術交流を深めることを目指している。

九州電力は、韓国電力と共同で「日韓共同研究センター」を設置し、電力分野の共同研究・開発を進めている。このセンターでは、電力分野の共同研究・開発を進め、日韓間の技術交流を深めることを目指している。

九州電力は、韓国電力と共同で「日韓共同研究センター」を設置し、電力分野の共同研究・開発を進めている。このセンターでは、電力分野の共同研究・開発を進め、日韓間の技術交流を深めることを目指している。

西日本新聞
平成 15 年 1 月 23 日

15.2.16 読売

福岡市 海底光ケーブル使用 釜山市 映像、音声のネット実験

福岡市と韓国・釜山市を結ぶ海底光ケーブルを使って両市の間で映像や音声やりとりする実証実験が15日、福岡市東区の九州産業大で行われ、同市西区の玄界中(伊藤光広校長、20人)の1、2年生12人がインターネットを通じて釜山大学の学生と交流した。



パブリックの形で出た福岡市の大学生と釜山の中学生が交流した。

玄界中の生徒、大学生と交流

両市、一十(情報技術)についての国際的関係を築くため、釜山が所蔵する「イー・ビ」のプロジェクトの一環として、釜山大学と玄界中の中学生がインターネットを通じて交流した。釜山大学は、インターネットを通じて、釜山大学の学生と玄界中の中学生が交流した。釜山大学の学生は、インターネットを通じて、釜山大学の学生と玄界中の中学生が交流した。

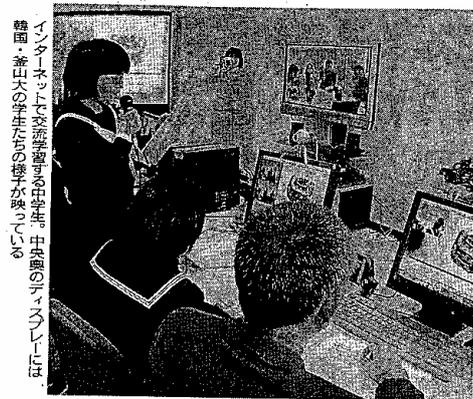
釜山大学は、インターネットを通じて、釜山大学の学生と玄界中の中学生が交流した。釜山大学の学生は、インターネットを通じて、釜山大学の学生と玄界中の中学生が交流した。

読売新聞
平成15年2月16日

西日本

海峡越えてIT学習

玄海中生徒、釜山大学生と交流



インターネットで釜山大学の中学生と、玄界中の中学生が交流した。

海底光ケーブル使い

文化や暮らしを紹介

日本と韓国を結ぶ超高速海底光ケーブルを使った福岡市の中学生と釜山大学の大学生の交流学習が、福岡市東区松島町の九州産業大学で行われた。参加者は朝日新聞に掲載したパソコンと天型ディスプレイ、ビデオカメラを回線つなぎ、お互いの文化や学校の様子を紹介、画面越しの会話を楽しんだ。交流学習は、インターネットで使われている大容量回線(ADSL)の約十倍の容量を持つ海底光ケーブル回線の実証実験の一環として実施。二〇〇五年の「IT社会」をテーマとし、福岡市からは十市で国際交流に力を入れる玄界中(同市西区)の玄界中学校の生徒十二人が参加した。十五日に開かれた交流学習では、生徒たちが授業や給食の風景、島の様子などについてビデオカメラやパソコンで韓国側に報告。釜山大学の学生たちには「やはり釜山は毎日食べるですか」「寒いときは、どれくらいまで気温が下がりますか」などと質問した。大塚のディスプレイ画面には釜山大学の学生の表情が映し出され、パソコン画面に質問の回答が翻訳されて次々に表示された。同二年の中村未希さん(14)は「韓国は暖かいけれど、寒いときは、どうやって過ごすのか」と質問したが、釜山大学の学生は「暖かいから大丈夫だよ」と答えてくれた。

西日本新聞
平成15年2月18日